

# NEWS LETTER

2010年5月号 (No.142)

東京都世田谷区用賀2-14-11-4F  
落合会計事務所  
TEL(03)5716-6528 FAX(03)5716-6529  
http://www.ochiaikaikei.com/

## 損益分岐点売上高を意識して経営をしましょう！

「損益分岐点売上高」という言葉を、ご存知でしょうか？「損益分岐点売上高」とは、経常利益がゼロになる売上高を言い、資金繰りの計算をする上で、非常に大切な概念となります。今回は、具体的な数字を用いて、ご説明したいと思います。

### ●損益分岐点売上高の計算

損益分岐点売上高は次の式で計算されます。

$$\text{損益分岐点売上高} = \frac{\text{固定費}}{1 - \text{変動比率}}$$

### ●変動費、固定費とは？

経費は大きく分けて、変動費と固定費に分けることができます。

#### ①変動費

変動費とは、売上高に応じて発生する費用のことをいいます。小売業、卸売業の場合であれば仕入高、製造業、建築業であれば、材料費、外注費が該当します。

#### ②固定費

固定費とは、毎月固定的に発生する費用のことをいいます。給料、家賃、水道光熱費、通信費など、販売費及び一般管理費のほとんどが該当します。

### ●計算例

今回は、借入金の返済のあるA社で考えてみたいと思います。前提条件は次の通りです。

・損益計算書

	金額[万円]	割合[%]
売上高	1000	100
変動費	△500	50
固定費	△450	45
経常利益	50	5
法人税	△20	
税引後利益	30	



- ・減価償却費 20 万円（固定費の中に含まれる）
- ・借入金の返済額 60 万円

① 借入金を返済するための原資を計算する  
借入金の返済するための原資は、

減価償却費+税引後利益  
で計算することができます。前提条件を当てはめると、20万円+30万円=50万円となり、返済額60万円に対して、10万円不足していることになります。

では、残りの10万円不足分を補うためには、いくら売り上げればよいのでしょうか？

② 借入金の返済に必要な利益を求める

借入金の返済に必要な利益 X は次の式で求めます。

$$X = \frac{\text{返済額} - \text{減価償却費}}{1 - \text{実効税率}}$$

返済額 60 万円、減価償却費 20 万円、実効税率 40%ならば、

$$X = \frac{60 \text{ 万円} - 20 \text{ 万円}}{1 - 0.4} = 66.7 \text{ 万円}$$

③ ①から借入金の返済に必要な売上を求める

A社が借入金を返済するために必要な売上高は、損益分岐点売上高の計算式を使うと、

$$\frac{\text{固定費} + X}{1 - \text{変動比率}}$$

となります。実際の数字は、固定費=450万円、X=66.7万円、変動比率=0.5ですので、

$$\frac{450 \text{ 万円} + 66.7 \text{ 万}}{1 - 0.5} = 1033.4 \text{ 万円}$$

以上の計算により、借入金の返済に必要な売上高は1033.4万円必要となりますので、あと33.4万円売上高が必要となります。

### ●最後に

今後の経営計画は、借入金の返済額から逆算して立てるのもよいかもしれません。

ご不明な点等ございましたら、担当者までご連絡ください。  
(塩谷 知世)